

事業名	種苗林木育種事業	財務コード (事業)	679201
-----	----------	---------------	--------

細事業名	種苗林木育種費
------	---------

担当部課室	森林環境 部 森林整備 課 森林育成・保護 担当 (内線)	6156
-------	-------------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 S45 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	誰(何)を対象に 林業用種苗の生産者	その対象をどのような状態にして 優良な種苗が安定的に供給されている	結果、何に結びつけるのか 健全な森林の造成
	<p>事業の概要</p> <p>林業種苗法に基づき、県内の森林整備(植栽)に、産地系統が明らかで優良な苗木を安定的に供給するため、優良な採取源の整備、品種の改良・育種、種子の採取、種苗の需給調整指導を行う。</p> <p>事業内容</p> <p>(1)県営採種圃の管理(下刈、剪定等) 17.26ha(下刈り12.44ha、剪定4.82ha)</p> <p>(2)母樹林からの種子採種 20kg</p> <p>(3)次代検定林の調査(優れた形質を保つ母樹の長期継続調査) 2箇所 1ha</p> <p>(4)時代のニーズにあった品種の育成(花粉の少ないスギ・ヒノキ、松食い虫抵抗性アカマツ) :平成21年度より県内で使用されるスギ苗木については全て少花粉スギになっている。</p>		
事業の内容主に 24年度			
根拠法令等	林業種苗法、林業種苗法施行令、林業種苗法施行規則		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	種子の採種量	153.7kg	25kg	98.9kg	19kg	19kg	活動指標 目標設定の考え方 森林総合研究所の種子貯蔵量と需要予測により年間採取量を設定している。
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		395.6 %				データの出典等 予算書、種子採種報告書(森林総合研究所)
成果指標	県内産法定樹種種子の供給量	12.10kg	10.46kg	10.46kg	12.88kg	11.18kg	成果指標 目標設定の考え方 林業種苗長期需要調査に基づき、目標値(法定樹種(スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ)種子の供給予定量)を設定。
	成果指標達成率 (実績値/目標値)		100.0 %				データの出典等 林業用種苗長期需要調査(森林整備課)
決算額、予算額	4,724	5,069		4,926	5,163	成果指標によらない成果 各品種の性質の検定に長い期間を要する育種事業を、科学的な知見を持つ県が実施することにより、各時代のニーズに対応する林業種苗を、県内に植栽することが可能となっている。(市場に供給されるスギについては平成21年度より少花粉スギとなった)	
(千円) うち一財額	230	751		4,369	4,554		
所要時間(直接分)	70 時間	70 時間		70 時間	70 時間		
所要時間(間接分)	0 時間	0 時間		0 時間	0 時間		
所要時間計	70 時間	70 時間		70 時間	70 時間		
人件費コスト単位:千円 (@2,050円×所要時間)	144	144		144	144		

これまでの事業の見直し・改善状況

なし
----

### 活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
H24年度活動指標達成率		目標量の種子を採取することにより、本来の活動量は達成している。 目標量を超過した種子を採取、保存する理由としては、種子の結実の豊凶は、その年の天候等により著しく変化し、安定的な採取を期待できないとともに、自然災害等の発生による種苗需要の急な増加が想定されるため全て保存しているものであり、予定どおりの活動量がある。
a	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記入すること
H24年度成果指標達成率		林業用種苗長期需要調査に基づき必要とされる種苗については、計画量を不足なく種苗生産者に供給しており、達成率100.0%となっている。 また、平成21年度には県内で使用されるスギ苗木は、全て少花粉スギとなり、時代のニーズに対応した種苗の提供が可能となっており、意図した成果をほぼ上げている。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

### 見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目
無		

・「以外の判断項目」の欄  
必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

### 見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
現行どおり	

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。